

シゲルくん通信

111
2022年
7月
発行号

建物超寿命化支援企業の
株式会社シゲル・コーポレーションが
毎月発行する瓦版です

NEO



こんにちは
【建物超寿命化支援企業】株式会社シゲル・コーポレーション社長の増村文武です。
各学校が夏休みに入るため、夏休み期間を利用した改修工事が一斉に開始となる時期ですね。弊社も各所御建物の防水・外壁改修工事をメインに、これからとても忙しい夏が始まりそうです。
さて、社名変更による新しいアイテムが続々と完成してまいりました。私が手に持っておりますのは、当社のマスコット、シゲルくんをあしらったブロックメモ帳です。

また、BSNラジオ月～金の朝6時50分から生放送中、パーソナリティ石塚かおりさんの『石塚かおりのBrand new day』にて、7月より当社も提供スポンサーの一社となり、ラジオCMを開始いたしました。毎週火曜日の朝8時台は、弊社『株式会社シゲル・コーポレーション』の提供アナウンスと弊社CMが流れます♪
更にこれから企画がスタートします『BSNラジオCMグランプリ2022』の協賛企業となり、今後広く全国の皆様より当社のオリジナルCMのアイデア募集を開始します。重ねてよろしくお願ひ致します◎(※詳細は別紙をご参照ください)



◎できる人はみんな「楽しそうに」仕事をしている気がします。

▲文・絵：ことだま千絵子

今月のトピックス

- I 携帯型水準式湿潤吸引電動サンダーのご紹介
 - II 社内研修会
 - III BSNラジオCMグランプリ2022
- ※別紙添付資料ご参照下さい

携 帯型水循環式湿潤吸引電動サンダー

2021年4月から、アスベスト除去に関する対策が強化されました。電動工具を用いる仕上塗材の除去作業は湿潤状態が必須です。このたび当社は、携帯型水循環式湿潤吸引電動サンダー（GSCウェットサンダー）を導入致しました。



④吸引
吐出された水と除去された塗膜及び下地調整材は機器内フィルターにてキャッチされ、塗膜及び下地調整材と水が分離され、廃棄物はフィルター内へ、水は循環再利用されます。

⑤携帯型
本体サイズ
W400mm×D350mm×H640mmとコンパクトで、全重量(ボディ+水)15.0kgの設計により、作業員1名でも仮設足場内の移動が可能となりました。

⑥消音化
電動モーター採用により、エア駆動タイプより大幅な消音化を実現しました。
一般的なエアサンダー：88dB
GSCウェットサンダー：78dB
※研削箇所より3m離れた最大音圧を測定(社内データ)

製造元 株式会社呉英製作所
開発協力 菊水化学工業株式会社

人と環境に配慮した 6つの特徴

- ①湿潤
集塵カパー内への連続水吐出により、常時湿潤状態にて、樹脂塗膜及び下地調整材の除去が可能です。
- ②水循環型
吐出した水は吸引され、再利用する循環機構によりWJ工法より大幅な水の使用量低減を実現しました。
- ③廃水0
作業完了後は機器内フィルター廃棄物と、残存水は高分子吸水剤又はセメントにて固化処理し現場での廃水0を実現しました。

社内研修会【日新工業株式会社様】



▲ 日新工業株式会社
成田智一様、横堀龍司様

▲ 長岡営業所とZOOMで
中継しての研修会

先日、日新工業株式会社様よりアスファルト防水の新工法・新仕様等の研修会を行って頂きました。新工法のアスファイン工法は、特殊フィルム加工した粘着層付改質アスファルトルーフィングを用いることで、従来の「砂付仕上げ」と比較して、大幅に意匠性が向上した改質アスファルト防水完全常温粘着工法です。特徴は、表面を特殊加工したフィルム仕上げとすることで表面の凹凸が無く、大幅に意匠性が向上します。また、火気を一切使用せず、粘着とシール材により張り付けることが可能なため、環境性能と施工安全性に優れています。

連載第51回 今月のテーマ『地名が映画の題名になっている作品』

自称、シゲル・コーポレイション内で一番の映画好き、増村文武です。

『トップガン マーヴェリック』 劇場で観てまいりました
♪ 1986年公開の第一作目にはまったアラフィフ、アラカン世代向けの心くすぐられる演出が随所にちりばめられております🌟 本作の主演戦闘機は現役世代のF/A-18Eスーパーホーネットとなりますが、一作目の主演戦闘機F-14トムキャットがラストにまさかの登場シーンには鳥肌が止まらない！ 本作を観た後は第一作目を再度観返したくなること必至です

さて連載第51回目、今月のテーマは

『地名が映画の題名になっている作品』です👉 我がご当地の新潟の地名を冠した国際的な映画の創出を夢に見ながら、今回も選りすぐりの3本を御紹介致します👉



★毎月掲載している挿絵はこちらからもどうぞ。



★今月のイラスト⇒

『パッケージが最高! メキシコ産クラフトビール【デイ・オブ・ザ・デッド】』

① 『ダンケルク (2017年 イギリス・アメリカ・フランス・オランダ合作映画)』

ダンケルクはフランス最北端の港街🏰 第二次世界大戦中のヨーロッパ圏における攻防として著名なダンケルクの戦いを映画化した本作 第二次世界大戦初期、ベルギー・フランス国境を突破した独軍により追いやられた40万人あまりの英仏連合軍兵士達は、フランスの港町ダンケルクからイギリスに向けて決死の脱出を試みますが👉 劇中の視点は、猛攻を受けながら奮闘する現場の兵士達、民間船を繰り出し海から救援に向かう人達、そして迫りくる独軍戦闘機を迎え撃つ戦闘機乗り達の3点に分けられ、それぞれをクロスオーバーさせることでストーリーに厚みが増していきます 当コラム過去号でもたびたび作品を紹介してきた私お気に入りの監督クリストファー・ノーランによる、あえて過剰な表現を抑えた淡々と進む演出により、戦争のリアルな怖さ、人があっけなく死んでしまう戦争の不条理さを逆に強く印象づけることに繋がっているように感じます 数ある戦争映画の中でも独特な印象が漂う1本👉 第90回アカデミー賞、編集賞、録音賞、音響編集賞を受賞👉

② 『パリ・テキサス (1984年 西ドイツ・フランス合作映画)』

邦題は『パリ、テキサス』ですが、原題は Paris, Texas, (テキサス州 パリス)となります テキサス州パリスは、同州ラマー郡の郡庁所在地で人口数万人の小さな街です 数年前に妻子の前から失踪しテキサス州を一人放浪する中年男の、妻子との再会と再びの別れを描いた作品 熱狂的なファンを持つヴィム・ヴェンダース監督による、いわゆるロード・ムービーとジャンル分けされる作品群の中でも金字塔的な1本👉 砂漠の荒野に続くまっすぐな道や線路、まさにテキサスといった風景の中で進んでいく物語は独特の情緒を醸し出していきます👉 世の中の距離感をなくしたスマホや携帯もまだ存在していない頃の時代であったからこそ、こんな余韻を残せる1本ができたのかもしれませんが👉 妻役のナスターシャ・キンスキーが旬、綺麗です 第37回カンヌ国際映画祭でパルム・ドールを受賞👉 なお、ヴィム・ヴェンダース作品ではやはり地名が題名についている『ベルリン・天使の詩』もお勧めです👉

③ 『ファーゴ (1996年 アメリカ映画)』

ファーゴは、米国ノースダコタ州南東部に位置する州最大の街🏰 といっても冒頭の酒場のシーンだけが題名の土地での出来事で、その後の展開はミネソタ州のミネアポリスやプレーナードという街を舞台に進んでいっちゃいますが… 自動車販売店の営業マン・ジェリーは多額の借金返済のために、妻ジーンの狂言誘拐の話ならず者の2人組に持ち掛けます 販売店の社長である金持ちな義父から多額の身代金を奪う算段でしたが、妻誘拐後の逃走の最中に2人組は、パトロール中の警官と通りすがりの若者二人を殺害してしまい… 監督はこれまた映画通には熱狂的なファンが多い『ノーカントリー』、『バートン・フィンク』のコーエン兄弟による1本👉 派手な感じは一切しませんが、コーエン兄弟作品に共通するブラックコメディ的要素を配した通好みの犯罪スリラーに仕上がっております👉 ちなみに冒頭、本作が実話を基にしているというテロップ説明がありますが、これは演出の一つであり実際は完全なるフィクション作品とのこと👉びっくり👉

もし御興味が沸いてきましたら、皆様もぜひ一度御鑑賞を (^_-)-☆

